

## 放射線科医って何？読影って何？

---

前略、私は毎月第2・第4土曜日を担当している放射線科医です。

専門は、腹部画像診断と血管造影検査なのですが、「なるほど」と理解できる方は少ないと思います。放射線科を大きく分けると、治療・核医学・診断の3部門になります。さらに、脳神経を主に扱う神経放射線のほか、乳腺・呼吸器・消化器・循環器など臓器別の専門、カテーテルを使った診断治療を行う領域、CTやMRIなどの診断装置別の専門など多種多様な専門が存在します。私の場合は、消化器中心の診断とカテーテルを使った診断治療になります。

ここ藤間病院での主な業務は、CT検査の造影（造影剤を静脈注射として行う検査）とCT（たまにMRI）や健診の胸部・胃透視の読影になります。読影というのは撮影したレントゲンフィルム（現在はモニター）上の病変や異常所見を、レポートという形で文章にして報告する仕事です。

読影を行うときに常に気をつけている点は、病変を見逃さないことですが、誰でも100%はあり得ません。ここ藤間病院では通常は検査を依頼した先生と共に、検診では常勤の宮下先生をはじめ、他の読影医と共に、一次、二次と2度読影を行うことで見逃しが少なくなるような体制になっています。このような体制の整った病院は多くはありません。

私は現在、大学病院を離れ、中規模病院で1人常勤の放射線科医をやっています。近年CT・MRI装置が多列化・高磁場化を遂げ、検査時間の短縮・分解能の向上を背景により多くの件数を、より広範囲で詳細に検査し、その結果の読影レポートを量産することが求められるようになっていきます。必然的に一日中CT・MRIの読影業務を行っているのが現状です。先に書いた専門領域の仕事は昔の話になってしまいました。

草々